

○出席議員との質疑応答

（※時間の制約上、何人かの質問に対してまとめて回答する方式で行われた）

- ・日本のような地震国に原発を建設することについてのご意見と、原発事故から1年が経って、当時の様々なことが明らかになるにつれ国民の関心や不信感も高まり透明性が求められている。本来であればこの質疑も公開にすべきではないか？アメリカではNRCの議論がどの程度オープンになされているか？
- ・規制庁創設にあたって参考にしたい。日本の事故の根底にあったのは、辿っていくとシビアアクシデントが発生する確率は巨大隕石が衝突する可能性と同程度というラスムッセン・レポートに突き当たるが、その後アメリカではラスムッセン・レポートは否定されたのか。
- ・NRC ヤッコ委員長は、4号炉プールに水が残っているかに非常に関心を示しておられた。水がなくなっているというシミュレーションでは、どのような巨大大事故になったのかという想定はされたか？
- ・日本の規制行政の人材育成プログラム再構築に尽力されたい。どのような配慮を行うべきか？
- ・福島レベル7のシビアアクシデントを受けて、いま原子力規制庁のあり方を巡る議論がされているが、委員会形式による合議制は日本では危機管理になじまないという意見がある。NRCは合議制だが、何か障害は起こっているか？また経験ある人材をリクルーティング・教育して育てているのか？
- ・原発の立地について。地震地帯のバージニア州でも、検証の結果、再稼働して安全と判断したのか？2007年の中越地震のような大きな地震が起こった場合でも、柏崎・刈羽原発への被害はほとんどなかったように、原発の安全性を疑うような大きなものはなかった。しっかりとしたコンクリートで固められた構造物には、通常は被害が及ばない。バージニアでもグロッサリーでは棚が崩れたが、乾式の貯蔵施設も動いていたが原発自身に何の問題も被害もなく、再稼働できる状態。福島1原発でも、地震による被害は大したことがなかった。まさに津波の被害と言い切って良いのがどの分析結果を見ても明らか。地震に対しては設計どおりに機能した。原発を壊すほどの地震なら周り全てを破壊してしまうレベルなのでそもそも避難が必要になるかどうか。地震を過度に考えず、洪水やハリケーンなどその他の原因も考慮を。

○マグウッド委員

- ・NRCでは機密情報以外はすべて公開する。メールのやり取りも開示。マスコミにも原則公開。議員は規制当局ではないのですべて開示する必要がある。
ラスムッセン・レポートについて、公に否定する人はいないが自明のこととして。過去に何回も危機が起こり、10万年に1回という確率は誰も信じていない。中身を分析し、リスクの定

量化によって 10 万年、100 万年に一度しか問題が起こらないと 1 つの数字で定量化して表わすブームだった。

(4 号炉のプールについて) 数字はもう水がないという状況を示していた。そのときの発言を批判しようとは思わない。

NRC は若い人は、2 年間は常駐検査員補として訓練を受けた後に、実地配備。NRC の専門家を保安に送った場合、誰に会うか、二国間の国際的枠組み・協定や合意で、危機的状況の受け入れをするかを教育する。

委員会形式は、アメリカではうまく機能しているので特に意見はなし。危機が起こった際には、各委員の権限は委員長に委譲するので問題は起こらない。